

別府大学附属図書館、そして司書としての取り組みについて

立花 志保

前回は、別府大学附属図書館で行われている情報リテラシー教育の一環として、昨年度行った『図書館活用講座』について報告したが、今回は『図書館活用講座』の報告とともに自らが行った学習なども通して、図書館の取り組みについて述べていこうと思う。

1 図書館活用講座

今年度は、6月と11月に2回開催した。オリエンテーションが終わって学生が図書館を利用するのに慣れた時期、そして、レポート作成や卒業論文・修士論文のためにということで、この時期を選んだ。前回のアンケートの結果は、「情報リテラシー2008」の冊子に反映させ、もっとわかりやすいよう図書館活用講座も改良した。

第2回の6月が12名、そして第3回の11月は8名とあまり多くなかったが、11月には、先生方が2名来てくださった。この時は、人数が多くなかったため、図書館1階で行ないパワーポイントと1人1台パソコンを用いて指導を行うことができたが、実際に検索を行なうことで理解が深まる面もあったと思うが、じっくり話を聞くという姿勢にならず、講義と検索とは、時間を区切って行う必要があるなど感じた。

受講した学生、先生方からは概ね好評であった。しかし休館日にあたる2回しか開催できないため、その日は、講義があるため受講できないという声も少なくなかった。

対策としては、グループ単位での申し込みがあれば講座を行っていきたいと考えている。また、基礎的なため「難しいことを行って欲しかった」という要望もあり、新しい講座を設けたいと考えており、後述する『ARGONAUTES かわら版』に載せ、利用者に発信している。

2 自主学習

昨年度は、『情報検索応用能力試験2級』を受けた。石井館長、皆上先生が、土曜日に受験生を対象にした勉強会を行ってくださったため、無事合格することができた。業務での積み重ねはあるものの、もう一度復習して業務を行うことは、学生へ指導する際にも、また自分の業務にも反映されるため、率先して行っていこうと思った。

そのため、今年は、平成20年9月に鹿児島大学で開催された国立情報学研究所(NII)での図書目録の研修に行ったが、それだけでなく、自ら勉強する機会を作ろうと考え、国立国会図書館によるインターネット上での講習を受講することにした。平成20年8月より国立国会図書館での『科学技術情報概論』を受講した。

NIIの研修は、以前より、研修日数が短くなっていた(3日から2日半)。その代わりに、事前学習をし、試験を受けなければならなかった。その試験は、70点以上取得を必須とし

たものであった。そのため、絶対に合格しなければと必死で勉強し、合格した。

内容は、パワーポイントの状態ですべて音声も出るもので、非常にわかりやすく、保存も可能なので、復習もでき、実際に講習に行く時間も短縮するので、便利だと感じた。

その同時期に『科学技術情報概論』のインターネット講習があったため、時間配分をして勉強していくのが大変だった。

内容も多岐にわたっていた。NII 同様に試験があり、80 点以上合格が必須だったため、これも復習を行ない、試験に臨んだ。無事、修了証書を得ることができた。

魅力的な講義も多いが、遠隔地では、なかなか参加できず残念に思うこともあるが、このような勉強を通して、少しでも司書としての知識を増やしていくことが必要だと感じている。

同様に、国立国会図書館の『資料保存の基本的な考え方』『和書のさまざま』という講義を受講し、無事両方とも修了できた。

3. ARGONAUTES かわら版

インターネット上の ARGONAUTES on WEB から、紙媒体としての ARGONAUTES を作ろうということにより、『ARGONAUTES かわら版』を平成 20 年 12 月に作成した。石井館長より、「書物逍遥」の原稿を頂き、田島松二先生より「我が著書を語る」を寄稿していただいた。以前の ARGONAUTES の良さを活かしながら、“新しい取り組みを行っていく図書館の活動”を紙面いっぱいに記載することができた。

これも、平成 20 年 11 月 4 日、5 日に石井館長主催のもと行われた「Work Shop」や、紀要の電子化、西日本図書館学会での川野洋子先生の発表など、館長、職員一同の取り組み等があったからだと思う。

大学の教職員、図書館に来館する学生に対して配布した。先生方や職員の方からも、かわら版はいいとお言葉をいただき、嬉しく思っている。

インターネットの利点としては、いつでも見ることができ、また、ページ数の上限もないという点が挙げられるが、紙媒体では、実際に手にとって見ることができ、また、配布することで、興味を持つ利用者も増えていくように思う。来年度も今回の第 1 号にまして、内容の濃い『ARGONAUTES かわら版』を出していきたいと考えている。

このように、自らもスキルアップを行って利用者に対してのより支援をしていきたいと考えている。2006 年より作成し、1 年生のオリエンテーション時に配っている「情報リテラシー」も来年度で 4 冊目となり、全ての学部生に行き渡ることになる。

今回は、国際経営学部新設とコースの編成のため、冊子も大幅な加筆・修正を行わなければならない。

学生が図書館の利用方法、活用方法を学ぶことは、単に学生時代、本を読むこと、レポート、論文を作成するだけにとどまらず、将来卒業してから社会人生活、そして自主学習

にも影響を与えるように思う。そのため、入学した 1 年生の時期から図書館の利用を行ってもらえるように、来年度は、各学科、専攻の先生方へ働きかけ、学生の図書館利用を促していくような新たな取り組みを行っていきたい。

(たちばな・しほ 別府大学附属図書館)